

# New Woman

時代を先取る女性のストーリー

新しい時代を生きる  
未来に向かい輝き歩む女たち



大和幸子さん  
Yamato sachiko

● 株式会社わくわく共育ステーション 代表取締役

大手住宅メーカーの住宅展示場で10年間勤務。2013年9月退職。放課後等デイサービス立ち上げに取りかかる。2015年5月「放課後等デイサービスなないろ」開設。2015年11月インターネットラジオ放送スタート

株式会社わくわく共育ステーション  
放課後等デイサービスなないろ  
TEL / 077-509-9077  
FAX / 077-502-5233  
住所 / 滋賀県大津市大平 2-4-30  
営業時間 / 10:00 ~ 18:00  
定休日 / 日曜日・祝日  
✉ info@wkwk-nanairo.com  
http://www.wkwk-nanairo.com

## コミュニケーションの難しさを 楽しさへ変えるトレーニング 障がい児の輝く笑顔がうれしい

周りとのコミュニケーションがうまくいかず、もどかしく感じた事は、私たちも少なからずあるだろう。生まれつき理由も分からず、日々それを感じて生きづらくいる子どもたち。そんな彼らが少しでも楽に生きていけるよう奮闘する彼女の視線の先に見える世界とは。

文 / 今井 淳二

生きづらさから抜け出し  
気付いたこと

滋賀県大津市の「株式会社わくわく共育ステーション」の代表・大和幸子さんが、障がい児のための通所訓練所「放課後等デイサービスなないろ」を誕生させたのは2015年の5月。以来、二年半、通ってくる児童、親御さんより絶大な信頼を寄せられている。前職で同僚が人間関係で会社を辞めていく姿を見て、今の社会で「生きづらさ」を感じている人の

役に立てればと思うように。

「もともと、自分もそうだったんじゃないかと思えます。自覚はなく、理由も分からなかったのだけど、漠然とした「生きづらさ」を感じてはいました」

社会に出て紆余曲折を経て、自分の在り方、生き方を変えるべきなんじゃないかと考えるようになった大和さん。そして自分の中で「生きづらさ」の葛藤から抜けた後で気付いたことがあったそう。

「社会に出て感じたのは、自分は



放課後等デイサービスでの毎日にラジオパーソナリティ。多忙だが充実した毎日を送る大和さん。

少数意見なんです。例えば会議で満場一致の時に『でも』とか、『それって、どういうことなんですか』って。そういう時に『うわ、何だこいつ』みたいななるのがしんどかった。障がい児たちの生きづらいついというのとは、ちょっと違うかもしれないけれど、社会の中で生きづらいついというのは、こういうことなんだな。理解されなくて、面倒くさくて。当事者たちは自分たちではその自覚がなく、何が原因というのわからず、ただ、生きづらいついんです。それは私の中でも通ってきた道なので、何か役に立ってることがあるんじゃないかなと」

こうして前職を退職後、約1年半の準備期間を置いて、「放課後等デイサービスなないろ」を開設

する運びとなった。同所では大和さんをはじめとする専門スタッフ達が、学校が終わると通ってくる発達障がい、知的障がいを持つ子どもたちに遊びや様々な体験を通じて、少しでもこの社会を生きやすくするための訓練をしている。ここで大和さんが取り入れている手法が興味深い。

「CTN(コミュニケーショントレーニングネットワーク)のコーティングを取り入れています。全ての源泉は自分にあるという考え方は、自分の在り方を探究し、それを変えることで周りの世界も変わるという考え方です。つまり、自分が変わることが、子どもたちを変えるということですね。だから、子どもたちを直接、何かに導くということはありません。イギリスの生物学者、ルパート・シエルドレイク氏の提唱する「形態形成場」という理論があるので、空間には目に見えないけれど、キッチンとした情報が存在していて、直接的な接触がなくとも、それが他の個体に影響を及ぼすというものです。天敵から身を守り、子孫を残しやすくするための生き物の進化がその一例です。同じ場にいる1人の子が変わって、2人の子が変われば、3人目も変わりやすくなるんです」



子どもたちが自ら率先して参加できるよう、プログラムを工夫。

### 心の障がいへの理解と価値観が変わる世の中に

また、大和さんは現在「ゆめのたね」というインターネットラジオチャンネルで「わくわくりなないろステーション」という番組のパーソナリティを務めている。

「自閉症をお子さんを持つ親御さんから、知り合いの経営者の方、うちの教室の生徒まで、お話を伺うことでその人の気付かない何かを引き出せたらとの思いでやっています。ゆくゆくは障がい者の方や、障がいのあるお子さんのいるお母さんの糧になるような番組にしていけたらいいなと」

こうした活動も通じて、障がい児やその家族、放課後等デイサー

ビスに対する理解を深めてもらうことに意欲的な大和さん。

「何十年も先の大きな目標なんです。『何十年も先の大きな目標なんです』って診断された時に、『何だ、自閉症だったんだ』と思えるぐらい、みんなを変えていければ。自閉症って本当に先天的な障がいであって、治らないって言われてるんですけど、うちに来てる子どもたちの保護者の方が、今までの数年間と『なないろ』に通い

はじめてからの数ヶ月を比べたら、信じられないくらい子どもが変わっているっておっしゃってました。私たちは子どもたちを限りなく健全児に近づける意図で取り組んでいます。そしてそれが可能であるとみんなが知っていければと。絶望するようなことじゃなあって、みんなが思えるような、そんな世の中のパラダイムシフトを起こしたいと思っています」。



他ではなかなかできないような体験も、障がいのある子どもたちが変わる要素になる。